

三師塔並びに法界萬靈供養塔建立の趣意書

三寶院は昭和五十六年(1981)九月七日東川口町の借家で、福山布教所として入仏式を行ってより、令和二年で四十周年を迎える事になります。

先だった物故者の方々も含め、皆さん方の信心の真心と精進に敬意の心を改めて抱くものであります。

入仏・開所当初より、自分達の信力・行力で寺院を建立しようとの希望と目標を持って努力し、

昭和六十年(1985)十月、現在地の千田町蕨路へ土地建物を購入し、移転することが出来ました。

平成元年(1989)二月十三日名称を福山布教所から三寶院へと改称。

平成三年(1991)六月十八日には宗教法人の認証を受け、宗教法人三寶院を設立。

平成三年(1991)九月二十九日三寶院十周年記念法要に合わせて屋根修復の事業を完成。

平成十二年(2000)四月二十七日には駐車場を購入。

平成十八年(2006)八月二十日新寺建立落慶法要

平成二十三年(2011)11月21日日本堂前の土地購入、駐車場に造成。

この様に、皆さん方に支えて頂き、現在の三寶院に至っています。

あつと言う間の様に思えても、一つ一つの局面で僧俗全体に決断を迫られる、大変な苦勞と努力がありました。

私は、福山布教所開所の時より、日蓮大聖人の仏法を多くの人々に折伏弘通して行く事と同時に寺院の建立と「法界萬靈の供養塔」の建立を願っていました。

一番は寺院の建立が第一の大事と考え、皆さん方の信心の真心の結晶として立派な寺院を建立することが出来ました。

新寺建立から十五年の時が流れ、もう一つの願いである「法界萬靈塔」の必要を具体的に考えるようになりました。

この為、十年前、三寶院開所三十周年を期して、蔵王靈園に、三師塔・法界萬靈塔の建立を計画し、設計・概算と九割九分迄計画が進んでいたのですが、蔵王靈園の側から、断りが入り霧消してしまいました。その後、色々な方々に尋ね歩きましたが、打開策がなかなか見出せないまま思い続け十年の歳月が流れました。しかし、どうしても建立する必要が有ると考え、建立した人の話しでなく、建立する経験を積んだ業者の話を聞いてみたらどうだろうか、大峠に店と加工場を構え長く仕事をされている「福山石材センター」さんに尋ねた所、墓園は厳しい届け出審査が有るけれども、供養塔は御寺として常識の範囲なので、今迄何ヶ寺も建立して来たとの話を聞き、寺院から離れた土地に建立するのでなく、境内地に建立する事が出来るという、理想的、現実的な打開策が見出されました。

どうしても建立しておかなければいけない理由として、無縁社会や少子高齢化の社会問題は、御信者さんにも無関係でなく。自分が亡くなった後、墓守をする者がいない、先祖の墓を建立しても維持管理が出来ない為に墓じまいを考えなくてはならない、墓を建立しても仕方が無いというジレンマを抱え、自分が死んだら、先祖や自分の御骨はどうになってしまうのだろうと、行く末に自分で答えを出せない不安を抱いている方々があります。この事は、現在、先祖の墓を所有されている方々に於いても無関係な話では無いのであります。

もう一点は、開所以来、何人かの御信者さんから、何年も生活を共にし、心が癒やされ、心の支えになってくれ、生活の友であった、ペットが亡くなり、

火葬した後、葬ってあげる場所が無いので、泣く泣く火葬場で廃棄処分を選択をせざるを得なかったとか、先祖の墓に入れてあげたいと家族親族に相談したが、反対され、庭や、近くの山へ持って行って埋めた。あんなに家族の様に寝起きを共にして来たのに、亡くなれば動物だからと疎外され、別れた悲しみと、そうせざるを得ない悲しみで、二重に苦しんだと言われる方々がいました。稀にペット専用墓園もありますが、そこかしこにあるわけでは無く、全ての人が多額を掛けてペットの墓を建立出来るわけではありません。信仰者として、最後迄生命に寄り添うとは、亡くなった後も、三世常住の生命として、成仏を願うという事ではないでしょうか。

家族で可愛がったペットは勿論ですが、高齢化、独居生活の割合が増し孤独な生活者が増えて行く時代の将来を見据えて考えなければいけないことではないかと思えます。

ペットの御葬式は、飼主の方が、御本尊様の前に遺体を安置して、御経・御題目を唱え、成仏を願う事で出来ますが、残された遺骨も、疎んじられ非難される事無く、南無妙法蓮華経の御題目を唱える事の出来る場所に葬ってあげるべきだと考えました。

御信徒の中には違和感、拒絶感、拒否感を抱く方々もいると思いますが、日蓮大聖人の仏法は、全ての生命は十界互具の生命であり、全ての生命に仏の生命が具わって、全ての生命が南無妙法蓮華経の御題目に縁する事によって、一切衆生平等成仏出来る資格を持っていると説いています。この法を根本として、御理解頂きたいと思えます。

この様な理由で、法界萬霊塔の向かって右横に、ペットの為の小さな法界萬霊塔を建立します。

現在、三寶院に御骨を預けている方がいますが、三寶院で預かっているのは、あくまでも、墓を建立する迄の仮り預かり(一時預かり)で最終的な【終の住処】ではありません。

又、法律の上でも、三寶院が預かり続けることは違法となります。

三寶院の墓園があればと言う方々もいますが、現在三寶院に所属している過半数の方々は先祖の墓を所持しています。新たに三寶院が土地を取得し墓園を造成することは、幾重にも困難なことであり、必要では無いと思えます。

以上の事から、三寶院護寺基金から、日蓮正宗の信仰の源を示す日蓮大聖人・日興上人・日目上人の三師塔を建立し、合わせて永代合葬のみの法界萬霊塔を建立したいと思えます。

どうか、三世常住にわたって信仰の原点である日蓮大聖人、日興上人、日目上人への御報恩謝徳の意志を形に示す三師塔と、法界萬霊塔建立の淨行の趣意微衷を御察し頂き、異体同心の御理解御協力の程、お願い申し上げます。

猶、建立暁の開眼供養は、令和二年二月十六日の日蓮大聖人御誕生会法要後、参詣の御信徒と共に行いたいと考えています。

令和元年十二月十三日

壽福山 三寶院 住職 廣田 頼道

三寶院法華講員各位様